

スタンドアロンからCUIC/LD/IdS共存の導入へのCUICのアップグレード

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景](#)

[設定](#)

[11.0\(x\)から11.6\(1\)へのアップグレード](#)

[10.5\(x\)から11.6\(1\)へのアップグレード](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Unified Intelligence Center(CUIC)スタンドアロンサーバを、2000エージェントロガータイプの11.6(x)のCUIC/ライブデータ(LD)/アイデンティティサービス(IdS)共存サーバにアップグレードする方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- CUIC
- Unified Contact Center Enterprise(UCCE)

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- CUIC 11.0(x)/10.5(x)
- Administration and Real-Time Data Server(AW)11.6(x)

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期(デフォルト)設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景

11.0(x)から11.6(1)へのアップグレード手順は、10.5(x)から11.6(1)へのアップグレード手順とは異なるため、このドキュメントでは異なるセクションで説明します。

リリース11.5(1)以降では、CUIC、ライブデータ(LD)、およびCisco Identity Service(IdS)を組み込んだ2000 Agents Rogger参照モデルが導入されました。

設定

11.0(x)から11.6(1)へのアップグレード

このセクションでは、CUICをバージョン11.0(x)からバージョン11.6(1)の共存サーバにアップグレードするために必要な手順について説明します。

ステップ1:[Unified CCE Administration] > [System] > [Deployment]で[Deployment Type]を[UCCE]に設定します。AWのエージェントロガー2000

ステップ2:ciscocuic.cce2k-cores-deployment.copをCUIC 11.0(x)サーバにインストールします。

ステップ3 : コマンドラインインターフェイス(CLI)でCUICサーバを再起動します。

```
utils system restart
```

注 : COPファイルのReadmeを[参照してください](#)。

注 : COPファイルのインストール後にコマンドset cuic co-residentを実行するためのインストールガイドの指示。これは、インストールされているCOPがこれを解決するため、正しくありません。

ステップ4:CUICをバージョン11.6(1)にアップグレードし、CLIでバージョンを切り替えます。

```
utils system switch-version
```

ステップ5:CLIでLDおよびIdSサービスが動作していることを確認します。

```
utils service list
```

10.5(x)から11.6(1)へのアップグレード

このセクションでは、CUICをバージョン10.5(x)からバージョン11.6(1)の共存サーバにアップグレードするために必要な手順について説明します。

ステップ1:[Unified CCE Administration] > [System] > [Deployment]で[Deployment Type]を[UCCE]に設定します。AWのエージェントロガー2000

ステップ2:COPファイルciscocuic.refresh_upgrade_v1.4.cop.sgnをCUIC 10.5(x)サーバにインストールします。

ステップ3:CLIでCUICサーバを再起動します。

```
utils system restart
```

ステップ4:CUICをバージョン11.0(x)にアップグレードし、CLIでバージョンを切り替えます。

```
utils system switch-version
```

ステップ5:CUICを11.6(1)にアップグレードします。「[11.0\(x\)から11.6\(1\)へのアップグレード](#)」
[セクションを参照してください](#)。

ステップ6:CLIでLDおよびIdSサービスが動作していることを確認します。

```
utils service list
```

確認

インストールが成功したことを確認します。次のCLIコマンドを実行します。

- このコマンドは、アクティブパーティションで実行されているバージョンを表示します。

```
show version active
```

- このコマンドは、非アクティブパーティションのバージョンを表示します。

```
show version inactive
```

- このコマンドは、インストールログを表示します。

```
file view install system-history.log
```

トラブルシューティング

現在、この設定で使用できるトラブルシューティング手順はありません。

関連情報

これら2つの不具合は、10.5および11.xのドキュメントに対してオープンです

- [CSCvg76065](#) UCCEインストールおよびアップグレードガイド、CUIC上でCLIのcuicが共存できるようにするための誤ったCOPファイルが文書化されている
- [CSCvh18697](#) UCCE v11.6インストールおよびアップグレードガイド、cuic共存アップグレードに関する誤ったCOPファイルのドキュメント
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)